

# 経営比較分析表（令和5年度決算）

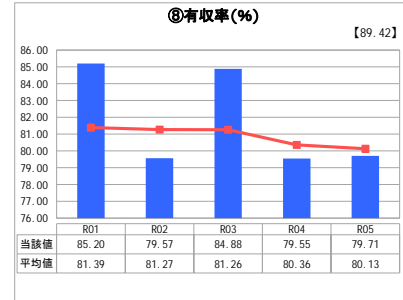
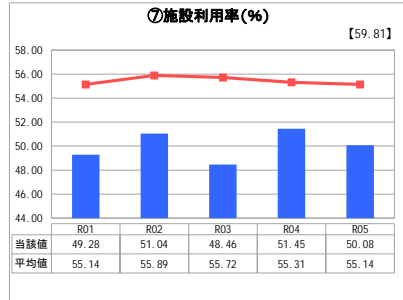
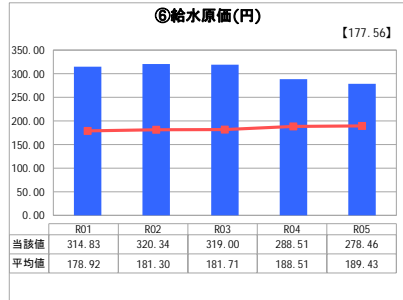
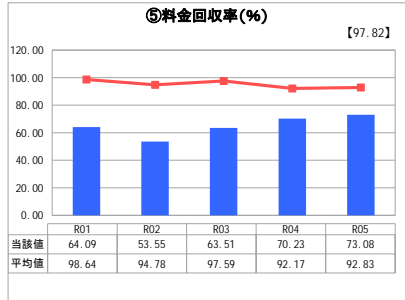
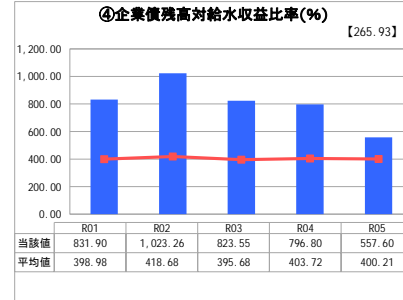
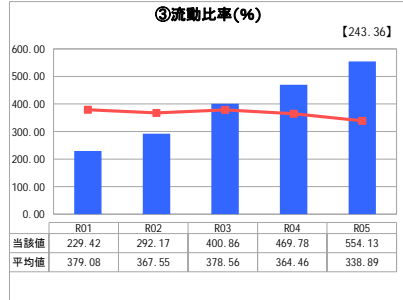
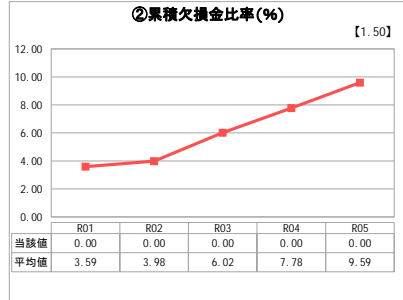
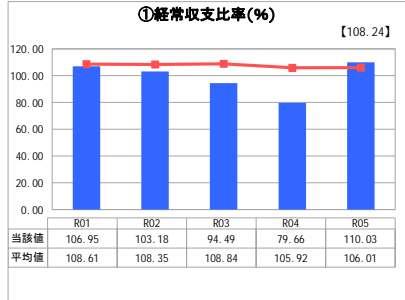
兵庫県 養父市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家産料金(円)	
-	72.81	99.97	3,700	

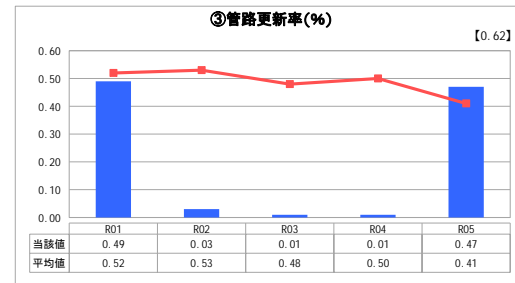
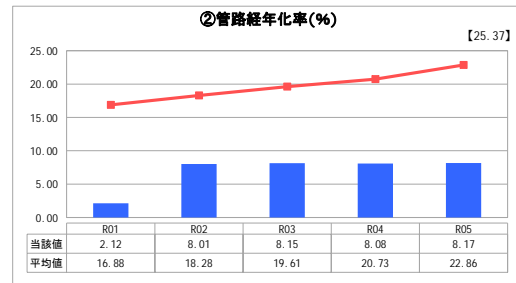
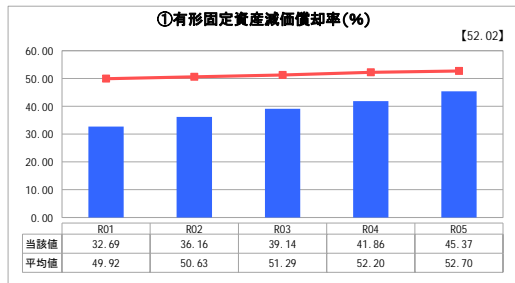
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
21,489	422.91	50.81
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
21,268	165.00	128.90

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和5年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

【経常損益】  
 経常収支比率については、令和4年度に皆減となった高料金対策分の補助金が回復したことや、繰上償還の補償金に伴う基準外の一般会計補助金を繰り入れたため、前年度から少し回復したが、今後経常収支が黒字に転換する見込みは少ない。  
 【債務残高】  
 債務残高についてはこれまで任意の繰上償還などにより債務負担の減少に努めてきた。しかしながら、当市は平野が少なく高低差が大きい地のため多くの施設が必要であり、その債務は未だに事業規模と比較して多い水準にあると言える。現在は発行額より償還額が大きいため起債残高は減少傾向である。  
 【料金水準の適切性】  
 当市の料金回収率は73.08%であり、必要な経費のおよそ7割しか料金収入で賄えていない状況である。令和5年度に公営企業審議会から「改正の必要あり」との答申をいただいております。引き続き改正について検討を行っている。

【費用の効率性】  
 給水原価は類似団体と比較して非常に高い水準にある。これは、これまで整備してきた施設の減価償却費が主な要因である。それ以外の経費については職員による施設管理の実施や繰上償還による利息の軽減、統合によるランニングコストの縮減などを図っているが、更なる経費の削減の検討を進めていく。

### 2. 老朽化の状況について

【施設全体の減価償却の状況】  
 類似団体の平均値などと比較すると低い数値であるが、これは平成29年度に簡易水道を統合した際、旧簡易水道関連の償却対象資産の帳簿原価を減価償却後の数値としたため、その時点で償却の終了している資産の償却がそれ以上進まないことが影響している。  
 【管路の経年化の状況】  
 管路の経年化率については、耐用年数が長いこともあり類似団体と比較して低い数値となっているが、有収率が低い値を示しており、管の老朽化は場所によってはかなり進んでいるとみられる。大規模な更新は予算の都合上計画的な更新が実施できておらず、部分的な修繕に留まっている。

## 全体総括

【財政状況】  
 歳入については、料金収入は人口減少により減少傾向であり、一般会計からの繰入金も基準額が年々減少している。一方で、歳出は多くを占めているのが減価償却費であり、減少はしているが多くの減額は難しい。今後は施設の老朽化による更新需要の高まりの影響が大きくなると考えられ、厳しい財政運営を余儀なくされる。  
 【資産の状況】  
 施設及び管理の老朽化は進んでいる。計画的な更新が必要であるが、財政的及び人的な面から多額の経費を使った大掛かりな更新は現状では困難である。令和6年度に更新計画の策定を進めており、限られた予算の中で出来る限りの効果が上がるよう検討する。